（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ７ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立草加東高等学校）　ｅ22

目指す学校像	希望をもって自己実現に努め、社会に貢献できる生徒を育成する。

重　点　目　標	１　主体的学習態度を育成し、学力の向上と希望進路の実現を図る。 ２　基本的生活習慣を確立し、部活動や学校行事等を通じて自律心と豊かな人間性を養う。 ３　開かれた学校づくりを進め、保護者・地域との連携を深める。

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年度評価（　月　日 現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況　※（ ）＝昨年度の最終報告数値	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・学力向上のために、朝学習や補習、検定試験奨励などに取り組み、一定の成果を上げている。 ・学年と進路指導部が両輪となった進路指導のもと、四年制大学進学率は約５０％で推移している。 ・全学年でタブレットが導入されている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・生徒自身の学習計画をマネジメントする力が必要である。目的を持った自学自習の学習習慣を身に着け、学力向上を図り、第一志望合格に導く。 ・全学年で導入しているタブレットを積極的に活用し、教員相互の授業見学や教材研究によって授業改善と質を高める。	・生徒の主体的学習態度の育成により学力の向上を図り、適切な進路指導のもと希望を実現する。	①-1 朝学習の計画的実施や効果的課題設定等により自主学習習慣の充実を図る。 ①-2 学習意欲の向上を図り、成績の向上につなげる。 ①-3 英検等各種検定試験の受検を奨励し合格に導く。 ②-1 スタディサポート等を活用しながら、個に応じた指導により進路希望の実現を図る。 ②-2 進路希望別補習を実施する。	①-1 授業以外の学習時間 ①-2 各学期の成績状況の推移 ①-3 各検定試験の受検・合格状況 ②-1 個人面談の実施状況と年度末の進路結果 ②-2 補習の開設数と参加者数				
		・全教員が授業改善を意識するとともに、全学年で導入しているタブレットの活用に取り組む。	③-1 生徒による授業評価アンケートを実施し、結果を各教科で考察する。 ③-2 外部講師の活用や授業研究月間を２回設定し、教員相互の授業観察や研究授業、公開授業等を実施する。 ③-3 タブレットの活用について先進校を視察するなど、研究・実践する。	③-1 授業評価・学校評価アンケート結果(理解度・興味関心) ③-2 授業研究月間、研究授業、公開授業等の実施状況 ③-3 タブレットの活用状況				
2	【現状】 ・全教職員の共通理解のもと、一丸となった生徒指導が行われ、落ち着いた学校生活が確立されている。 ・真面目で素直な生徒が多く、中学校や地域からの評価も高い。 ・部活動の加入率が90%を超え、生徒の学校生活の充実をもたらしている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・遅刻指導や交通事故防止に向けた指導を継続していく。 ・心の悩みを抱える生徒に対する教育相談体制の充実や人間関係形成能力の育成できる体制を維持していく。 ・生徒会活動、部活動、学校行事に主体的に取り組ませる工夫を検討する。	・交通事故防止の意識を高めるとともに、メンタルヘルスリテラシー向上を図り、安全・安心で秩序ある教育環境を維持する。	①-1 効果的な交通安全教室、全職員による立哨指導や巡回指導を行う。 ①-2 外部講師による講演も含め、生徒の心に響く指導をする。 ②-1 生徒の実態把握に関する調査を各学期に実施し、遅滞なく生徒の課題に対する指導・支援を行う。 ②-2 メンタルヘルスリテラシー教育の取組を学校全体で継続し、生徒相互のピアサポート力を高める。	①-1 交通事故発生件数及び遅刻状況と皆勤者数 ①-2 特別指導の発生件数と指導対象人数の推移 ②-1 いじめ実態調査結果、学校評価アンケート結果 ②-2 実施計画に基づく取組状況				
		・部活動、生徒会活動、学校行事を活性化させ、豊かな人間性を養う。	③-1 部活動活性化により、自己肯定感を高め生徒に達成感を与える。 ③-2生徒会活動や委員会活動活性化により豊かな人間性を養う。 ③-3 生徒の主体的な運営により、参加者の満足度が高い学校行事を実現する。	③-1 部活動参加率と活動実績 ③-2 生徒会や各委員会の活動状況 ③-3 各学校行事の実施状況及び学校評価アンケート結果				
3	【現状】 ・保護者連絡の機会は設定されており的確な情報提供の基盤はできている。 ・ＨＰには一定のアクセスがある。 ・中高連携の成果は入試倍率に表れている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・保護者との連携体制の充実を進める。 ・メール配信を中心に、保護者通知等の効率的な運用を進める。 ・本校の魅力を効果的に、かつ最新の情報を速やかにＨＰで発信する。 ・中高連携や効果的な生徒募集活動を全職員で進めながら、地域との交流充実を進める。	・迅速な情報発信と丁寧な対応により、保護者からの信頼を高める。	①-1 メール配信システム加入者及び情報発信回数を増やす。 ①-2 各担当による情報発信の回数を増やしＨＰの内容充実を図る。	①-1 メール配信システムの運用状況 ①-2 ＨＰの更新回数				
		・中高連携や地域との交流により、本校への理解を深める。	③-1 生徒募集担当で企画し、全職員で生徒募集活動にあたる。 ③-2 各部活動や学年等による地域との連携・交流を充実させる。 ③-3 ＳＮＳを活用した広報を充実させる。	③-1 中高連携行事実施状況及び学校説明会等への参加者数 ③-2 社会福祉施設や公民館との交流回数と参加者数 ③-3 ＨＰの閲覧数				